

年頭所感 配置業界のキャッシュレス決済の行方 様子見か、先陣を切るか

発行：日本置き薬協会 事務局

新年明けましておめでとうございます。本年も、日本置き薬協会、並びに配置薬業界を宜しくお願い致します。キャッシュレス決済は避けて通れないとはいえ、配置薬業界では法人販社の一部を除き様子見状態といえそう。業界紙の取材を転載する。

家庭薬新聞 11月15日号1面「近畿ブロック秋季正副会長会議 キャッシュレス決済や総額表示など将来見越し対応を キャッシュレス決済、スマホ決済にはお得感あり 会話にもつながるツールに」

和歌山県副会長兼事務局長の脇本伸二氏がスマホ決済における自社の取組事例として、4回も審査が通らず厳しい状況だったものの、担当者や打合せを重ね審査をクリアした経緯を紹介。

この中で同氏は、キャッシュレス決済に取り組んでいる自身の感想として「得意先の使用率は低く無理して導入する必要はないと考えられなくもないが、得意先から対応の有無を問われた場合、『対応できる状態であれば、得意先にとってもお得になる』と強調。そこで配置箱には同決済対応可能を周知するステッカーを貼ってあるなど独自の取り組みも紹介しながら、これにより得意先との会話にも繋がるのが少なくないため「コミュニケーションツールとなりうる」と指摘。このほか高額商品の支払いの時の利用率が高いことや売掛の心配のないことなどのメリットを取り上げながら「やってみてからも分かることもあるので、キャッシュレス決済『も』もできるなどと、取り掛かりは少し軽い気持ちで始めてみてもよいのではないか」と提案していた。

薬日新聞 11月17日号6面「消費増税から一か月 岡山県倉敷市(株)フカイの場合 キャッシュレス決済は10月以前の6倍」

竹内（社長） キャッシュレス化比率は一か月間で21%でした。キャッシュレス決済のこの一か月の決済金額は、今まで準備してきた6か月分と、ほぼ同額です。つまり、弊社では、この一か月で一気にキャッシュレス決済が10月以前の6倍にも増えた、ということです。詳細は、売上入金2,331万円に対して、現金集金1,839万円(79%)、クレジットカード決済373万円(16%)、スマホQR決済118万円(5%)でした。(編集注 同社営業社員数は19名で、18名がクレジットカード決済)

政府の発表では、現在の日本のキャッシュレス比率は20%、政府の10年後目標は40%としています。弊社としては、キャッシュレス比率50%を目標とし、配置員さんや事務員さんの現金取扱いの手間や現金ツケ払いの回収の手間を減らし、配置員さんが今以上にお客様の健康管理に向き合える時間を変えたいと考えています。

キャッシュレス決済による業務の「生産性向上」が、配置、対面、訪問という「低生産性」が特質の配置薬業とどのようにマッチングするか。業界寡占化と二極化が更に加速されるのではなからうか。